

河川整備計画（本文）

出典・根拠

1.2.3 河川環境に関する現状と課題

(1) 生物の生息・生育

(植生)

圏域内で確認されている植生は、圏域北部の比良山地高山部ではクロモジ・ブナ群集やブナ・ミズナラ群落から成り、圏域内河川の上流部にあたる比良山地中腹部ではスギ・ヒノキ・サワラ植林やモチツツジ・アカマツ群集・クヌギ・コナラ群集が広がっています。圏域内河川の中流部から下流部にかけては水田と市街地が混在する里山的景観になり、竹林やカナメモチ・コジイ群集が広がっています。湖岸沿いは、圏域北部にクロマツ群落、ヌマガヤ、竹林などの生育が確認されており、圏域南部は人工湖岸であるため、植生はほとんど生育していません。

また、圏域中部の真野川の河口部や雄琴地区および下阪本地区などの湖岸域のヨシ群落が、滋賀県で平成4年度に施行された「滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例」のヨシ群落保全区域に指定され、一部でヨシ群落の保全事業が実施されています。平成16(2004)年には「ヨシ群落保全基本計画」を決定し、ヨシ群落の育成、生態特性・地域特性に応じた維持管理、刈り取ったヨシの有効な利活用を図ることとしています。

保全すべき貴重な植物としては、真野川の中流部にエビネ（環境省版レッドリスト：準絶滅危惧）が、相模川、盛越川など8河川にはフジバカマ（環境省版レッドリスト：準絶滅危惧/滋賀県版レッドリスト：要注目種）やガガブタ（環境省版レッドリスト：準絶滅危惧/滋賀県版レッドリスト：絶滅危機増大種）が確認されています。

(魚類)

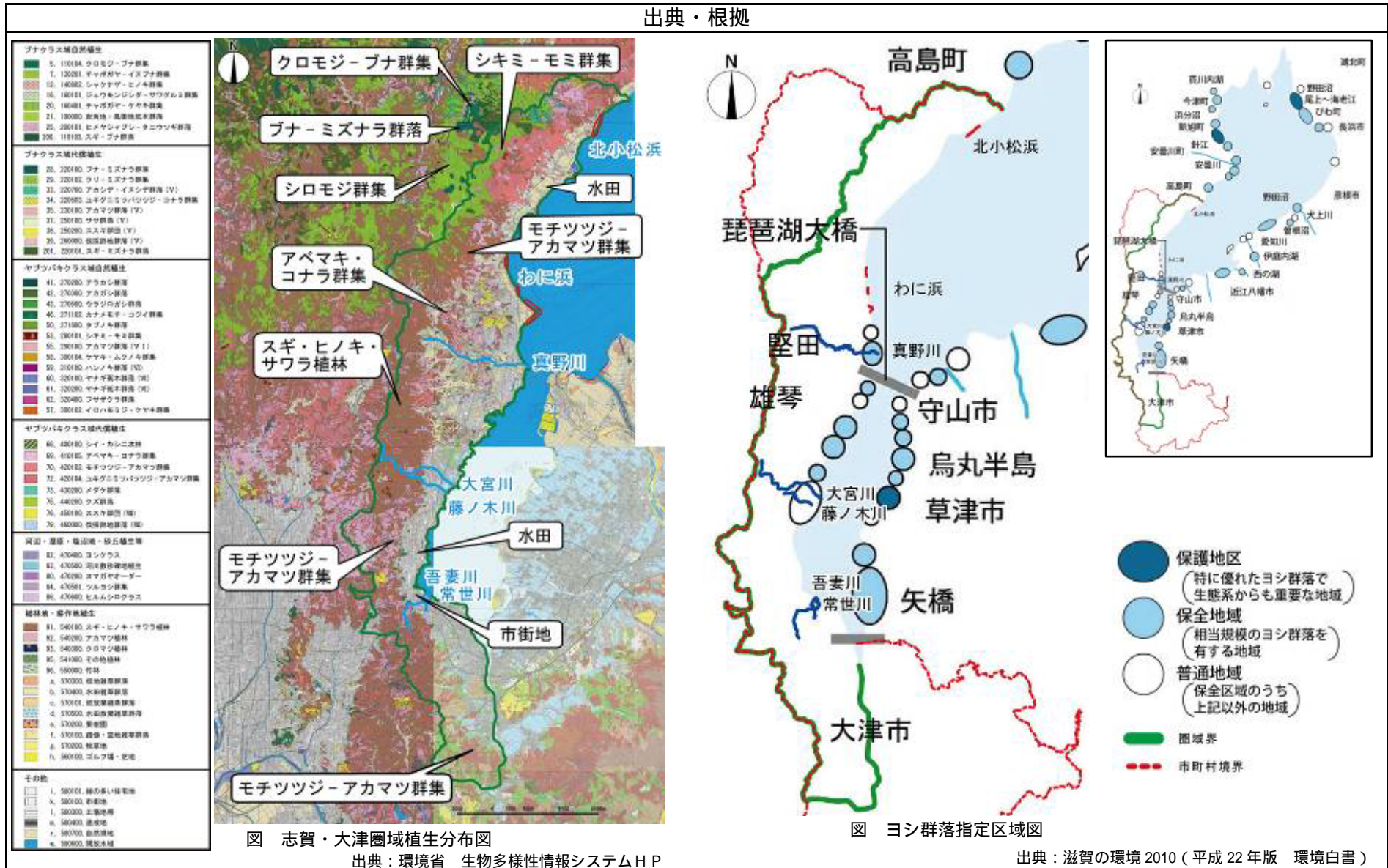
圏域内で確認されている魚類は、アユ、オイカワ、カワムツ、コイ、タナゴ類、メダカ（環境省版レッドリスト：絶滅危惧 類）、ドジョウ、モツゴなどの生息が報告されています。特に、和邇川わにがわの下流部ではアユの産卵に好適な河川であり、水産資源保護法に基づくアユの保護水面に指定されています。

また、多くの河口では、ブルーギルやブラックバスなどの外来生物が確認されており、生態系への影響が危惧されています。

圏域内に生息する保全すべき貴重な魚類としては、真野川の中流部と藤ノ木川にウツセミカジカ（環境省版レッドリスト：絶滅危惧 B類）が確認されています。



写真 ウツセミカジカ



河川整備計画（本文）

出典・根拠

（動物など）

圏域内で確認されている動物としては、哺乳類では、比良山地や比叡山地にニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、カモシカなどの生息が確認されています。鳥類では、カモ類やカイツブリ、ユリカモメなどの生息が確認されています。昆虫類では、ムカシトンボ、ハッチョウトンボ、オオムラサキ（環境省版レッドリスト：準絶滅危惧）、ギフチョウ（環境省版レッドリスト：絶滅危惧類）、ゲンジボタルなどの生息が確認されています。両生類では、上流域でヒダサンショウウオ（環境省版レッドリスト：準絶滅危惧）、モリアオガエルなどが、市街地の雄琴地区では、ダルマガエル、カスミサンショウウオ（環境省版レッドリスト：絶滅危惧類）の生息が確認されています。

圏域内に生息する保全すべき貴重な動物として鳥類では、真野川流域でチュウサギ（環境省版レッドリスト：準絶滅危惧/滋賀県版レッドリスト：希少種）が確認されています。

（主要河川の主な確認生物）

真野川には、植物では桜やヨシ、ススキなどが生育し、魚類では前述のウツセミカジカほかカネヒラやトウヨシノボリなどが、鳥類ではヤマセミやカワセミなどに加え、貴重な種としてチュウサギが生息しています。

大宮川には、植物では竹林やヒメガマなどが生育し、魚類ではトウヨシノボリなどが生息するのに加え、平成 22 年度にはビワマス（環境省版レッドリスト：絶滅危惧）の遡上が確認されています。鳥類ではコサギやシギなどが生息しています。

藤ノ木川には、植物ではミゾソバなどが生育し、魚類ではトウヨシノボリなどや、貴重な種として真野川と同じく、ウツセミカジカが生息しています。

常世川・吾妻川の石積み護岸の間隙には、ヨモギやベニシダなどの植物が生息しています。



写真 アブラボテ



写真 カネヒラ



写真 トウヨシノボリ



写真 ビワマス

出典：滋賀県ホームページ（滋賀県水産試験場）



写真 カワセミ



写真 ヤマセミ

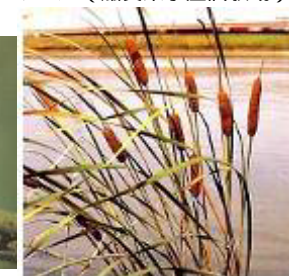


写真 ヒメガマ

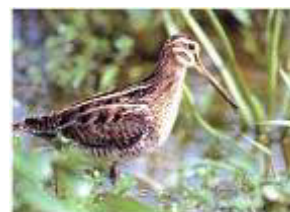


写真 シギ



写真 コサギ



写真 カイツブリ

## 河川整備計画（本文）

相模川、盛越川など8河川には、植物では前述のフジバカマやガガブタほかヨシなどが生育しています。

魚類では、アマゴ、アユ、オイカワ、ヨシノボリなどが生息しています。

このように、真野川をはじめ圏域内の河川では、多種多様な生物や保全すべき貴重な種が確認されており、生物の生息・生育環境が保全されるように努める必要があります。

## 出典・根拠

1. 生物の現状

1.1 植物

種	種	産地
フジバカマ	フジバカマ	相模川
ガガブタ	ガガブタ	相模川
ヨシ	ヨシ	相模川
...	...	...

1. 生物の現状

1.1 植物

種	種	産地
...	...	...
...	...	...

図 相模川、盛越川等8河川の植物

出典：淀川水系流域委員会 第1回琵琶湖部会 資料3 淀川水系の現状説明

1. 生物の現状

1.1 魚類

種	種	産地
アマゴ	アマゴ	相模川
アユ	アユ	相模川
...	...	...

図 相模川、盛越川等8河川の魚類

出典：淀川水系流域委員会 第1回琵琶湖部会 資料3 淀川水系の現状説明

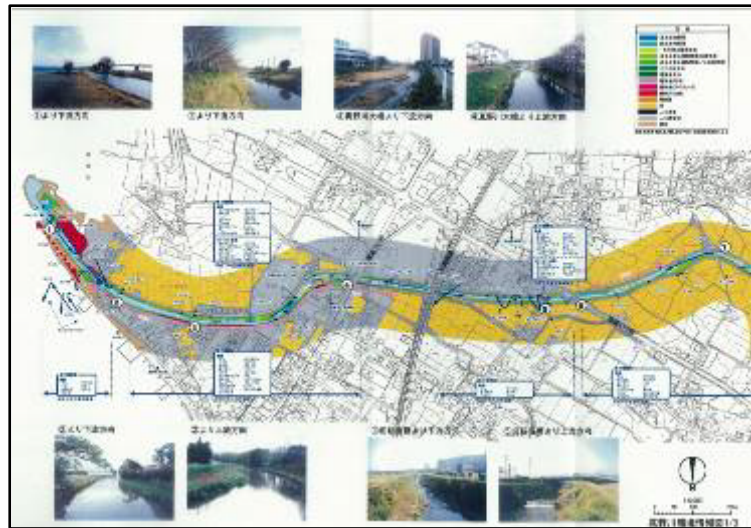


図 真野川河川環境情報図(1)

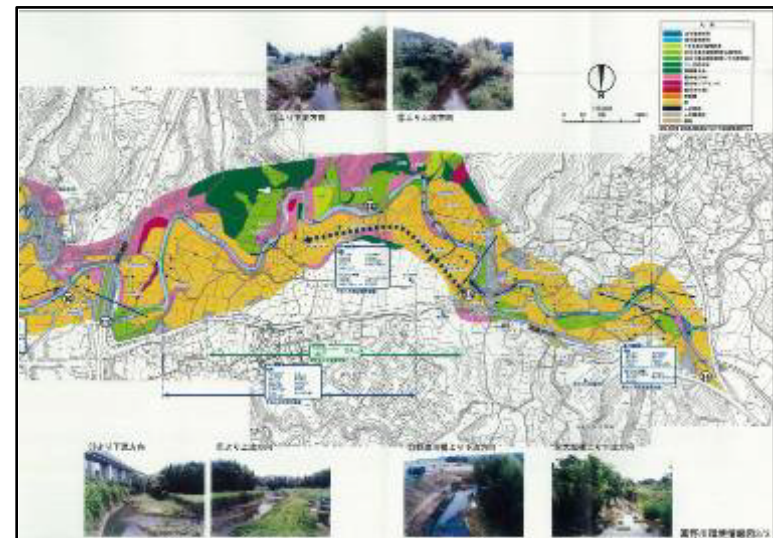


図 真野川河川環境情報図(3)

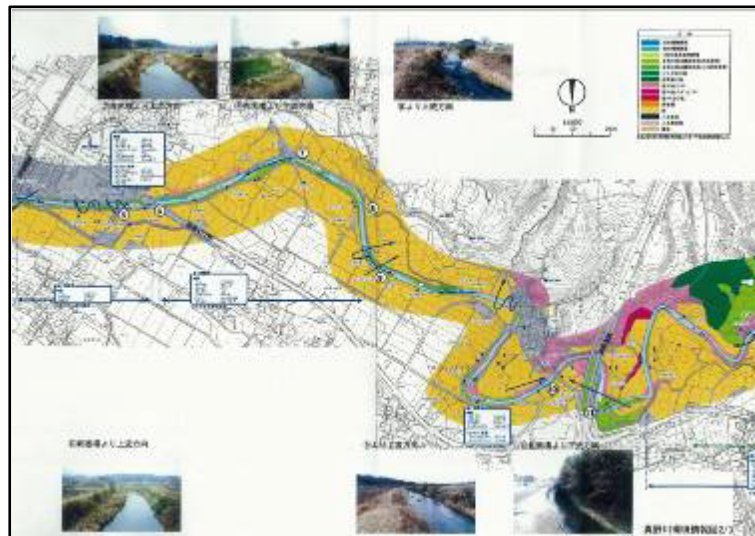


図 真野川河川環境情報図(2)

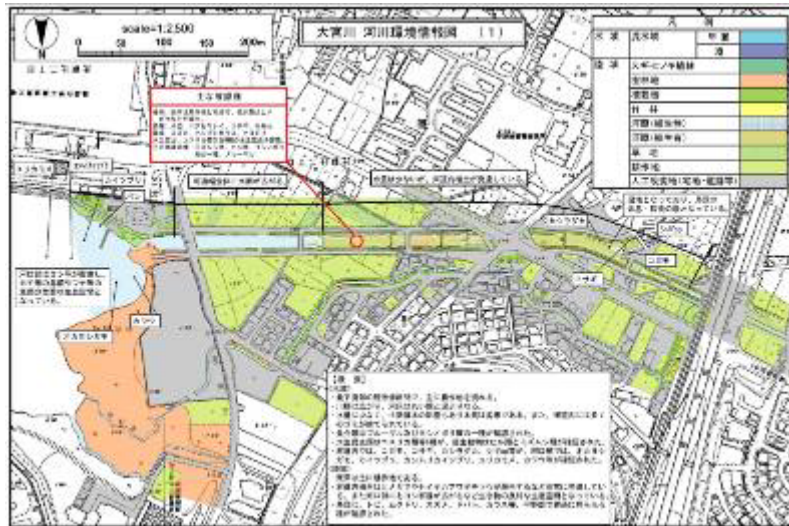


図 大宮川河川環境情報図 (1)



図 大宮川河川環境情報図 (3)

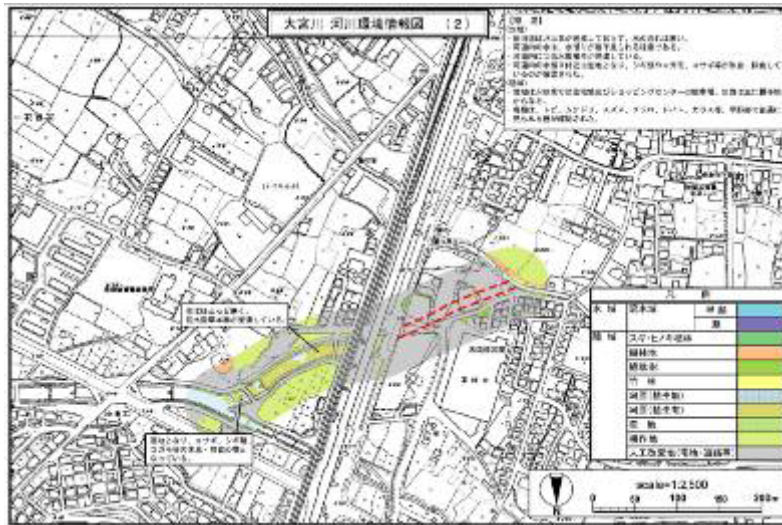


図 大宮川河川環境情報図 (2)

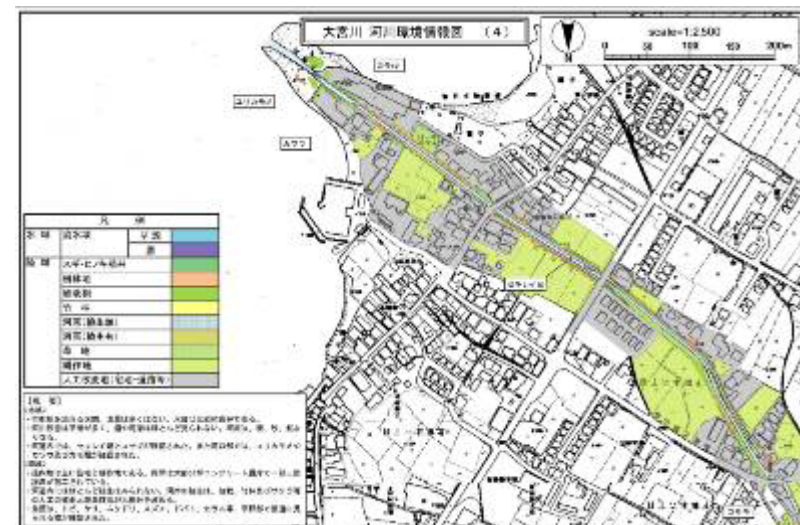


図 大宮川河川環境情報図 (4)